

外国語活動（英語活動）の実践

守谷市立松ヶ丘小学校

1 はじめに

本校では、外国語活動（英語活動）を通して、「コミュニケーション能力の素地を養う」ことを目標とした様々な教育活動に取り組んでいる。特に、週に1時間の外国語活動（英語活動）の時間においては英語を使った言語活動や異文化に触れる体験的な活動を取り入れながら、積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図っている。第1学年から英語学習を取り入れることによって、段階的・系統的に英語を学ぶことができるとともに、異なる文化をもつALTとの交流を通して、体験的に外国の文化等の理解を深めることができると考える。

2 具体的な実践内容

(1) 特例校としての取組

① 低学年の実践

生活科の時間との関連では、身近な人との関わりで、友だちや先生に英語で挨拶したり、自分のこと（自己紹介や好き嫌い）や家族を紹介したりする学習を行った。この活動を通して、英語でのコミュニケーションの楽しさを味わうことができた。また、社会・自然との関わりとして、天気や生き物の名前を知り、歌やゲームを通して覚えていく活動を取り入れ、音や体で自然に言葉を覚えるようになった。

② 中学年の実践

総合的な学習の時間と関連させて、国際理解に関する学習を行った。世界の国々の位置を地図で確認しながら、国旗や紙幣、代表的な建物や人物、動物の写真や映像を英語で紹介していく活動を設定し、楽しみながら異文化理解が深められるよう工夫した。

(2) 小中一貫教育の視点を意識した取組（高学年の実践）

小中接続期の活動としてフォニックスの活動を段階的に実施してきた。口の形や舌の使い方、音の繋がりなどを意識させた活動を取り入れた。6年生では音の変化に気づき文字の並びを見て、正しく発音できる子が増えてきている。コミュニケーションチャレンジを意識し、ALTと1対1での質疑応答を行い、会話の流れと作り方が分かってきた。市内小中学校のALTをゲストティーチャーとして本校に招き、活動を行った。日本語を使わず英語のみの活動で積極的に会話を楽しみ、他校のALTと楽しくコミュニケーションを図ることができた。



3 学校独自のアプローチ

(1) イングリッシュコーナーの設置

児童が自由に英語に慣れ親しむことができるよう、各教室および廊下や階段にイングリッシュコーナーを設置している。学年の発達段階に応じて掲示内容を考慮し、児童の興味・関心が高まるよう工夫している。

(2) イングリッシュルームの整備

外国語活動（英語活動）の時間を効果的に行えるよう、特別教室の一室をイングリッシュルームとして使用している。そこには、世界地図や各国の写真などを掲示し、国際理解を深めながら英語に楽しく親しむことができる工夫をしている。

(3) 英語学習プリントの配布（高学年）

外国語活動で学習した英語表現をまとめ、定期的に学習プリントとして高学年に配布している。児童はそれを家庭学習や自主学習などに役立てている。学習した英語をより効果的に身に付け、中学校へのスムーズな接続ができるよう工夫している。

(4) スカイプを利用した発展的交流学習

6年生の授業でスカイプを利用した交流学習を行った。外国に住む日本人学校の児童たちと外国語を通して交流することで、積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲を高める授業展開の工夫に取り組んだ。

4 成果と課題

1年生から段階的・継続的に英語学習を行うことで、児童は無理なく自然に英語に慣れ親しむことができている。ALTと触れ合う機会が十分に確保されているため、英語への興味・関心が非常に高い。積極的に英語でコミュニケーションを図り、伝え合う楽しさを味わっている。また、授業では、日本語を使わずに、ALTの英語での指示や説明をしっかりと聞き取り、内容を理解することができるようになってきている。また、スカイプを利用した交流学習では、外国語を使う必要性やもっと学びたいという意欲が高まった。今後は、実践的コミュニケーション能力を効果的に育成する場を積極的に設けること、また小学校の外国語活動で興味・関心をもったことを中学校の外国語教育につなげられるよう指導計画の見直しを図ることが課題である。